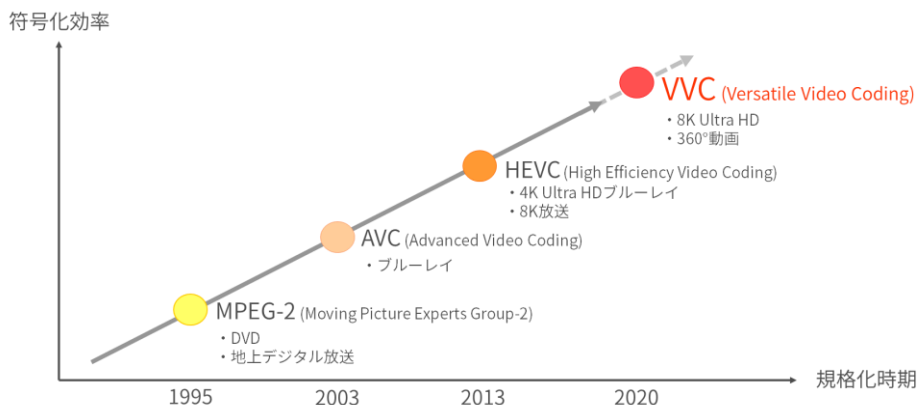


8K映像データを従来規格比<sup>※1</sup>約1/2に圧縮し、より容易な再生や操作を実現

**8K**

## 世界初<sup>※2</sup>「8K対応リアルタイムVVCデコーダー」を開発



映像符号化規格 発展の歴史

シャープは、世界で初めて、新映像符号化規格であるVersatile Video Coding（以下、VVC）に準拠した「8K対応リアルタイムVVCデコーダー」を開発しました。

映像符号化規格は、品質低下を最小限に抑えながら映像データの容量を圧縮し、保存や伝送などを行いやすくすることを目的とした規格です。DVD・地上デジタル放送に利用されているMPEG-2やブルーレイに採用されているAVC、4K Ultra HDブルーレイ・8K放送で利用されているHEVCなど、映像メディアの発展とともに、より高度な規格が開発されてきました。最新規格であり、当社も標準化に取り組んだVVCは、HEVCの約1/2にデータを圧縮できることから、より高画質でデータ量の大きい8K映像や360°映像などへの活用が期待されており、現在、各社が実用化に向けて開発に取り組んでいるところです。

今回、当社が開発した世界初の「8K対応リアルタイムVVCデコーダー」は、VVCでエンコード（符号化）された8K映像データのデコード（復号）に対応したソフトウェアです。映像再生ソフトウェアや解析機器などと組み合わせることで、VVC対応の8K映像処理専用LSIをもたない機器でも、VVCで圧縮した8K映像の表示や解析などが可能となります<sup>※3</sup>。また、当社独自の高速復号処理によりリアルタイムでデコードしますので、高精細な8K映像のなめらかな再生や操作を実現します。

当社は、VVCの実用化に向けた他社との共同開発、映像評価・解析用途向け機器（コーデックアナライザー）、ソフトウェアの販売などのソリューション提供を多角的に展開し、「8K+5Gエコシステム」の実現に取り組んでまいります。

### ■ 主な特長

1. 世界で初めてVVCでエンコードされた8K映像のリアルタイム復号を実現
2. ソフトウェアのみによる8K映像の復号を可能に
3. 独自の高速処理により、8K映像のリアルタイム処理が可能

※1 HEVCとの比較において、映像により圧縮率は変動します。

※2 8K映像のリアルタイム処理に対応したVVCデコーダーとして。（2020年12月4日現在、当社調べ）

※3 VVCに対応可能な処理能力が必要です。